埋蔵文化財調査(市内遺跡)報告書

－平成 29 年度－

２０１８

千葉市教育委員会

例　言

1．本書は平成 29 年度埋蔵文化財調査（市内遺跡）の報告書である。
2．本調査は、千葉市が市域の開発事業等に対し、埋蔵文化財の取り扱いについての適切な措置を講じ、その保護を図るために国庫の補助を受けて実施した。調査組織は次のとおりである

事業主体者及びその組織

千葉市（主管）千葉市教育委員会生涯学習部文化財課

教育委員会事務局

- 教育長　磯野　和美
- 教育次長　森　雅彦
- 生涯学習部
  - 部　長　大崎　賢一
  - 文化財課
    - 課　長　志保澤　剛
    - 特別史跡推進担当課長　滝田　希成
    - 課長補佐　芦田　伸一
    - 主　査　森本　剛
    - 文化財保護班
      - 主任主事　長南　基
      - 主任主事（再任用）　飛田　正美
      - 主　事　八木澤　美有
    - 特別史跡推進班
      - 主任主事　西田　猛
      - 主任主事　須賀　真弓
      - 主任主事　大内　祐也
    - 埋蔵文化財調査センター
      - 所　長　西野　雅人
      - 主　査　石橋　一恵
      - 主任主事　松田　光太郎
      - 主任主事　長原　亘
      - 嘱託員　難波　美由紀
      - 嘱託員　菅谷　通保
      - 嘱託員　尾崎　沙羅
      - 嘱託員　石渡　真希　※１０月１日着任

3．市内遺跡とは、市内に所在する旧石器時代から中世に至る遺物包含層・貝塚・集落跡・古墳・塚・野馬土手・城館跡等の遺跡を包括したものである。
4．本書の執筆・編集は、長原　亘が行った。
5．各遺跡の調査により出土した遺物及び作成した図版・写真は、千葉市埋蔵文化財調査センターで保管している。

目　　次

例　　言
目　　次
はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
1　並木遺跡・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5
2　平山城跡・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6
3　荒立遺跡・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・8
4　山之越第1遺跡・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・9
5　内荒子北遺跡・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10
6　古山遺跡・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・11
7　廿五里遺跡・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・12
8　上ノ山遺跡・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・14
9　台さら坊遺跡・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・15
10　東海道遺跡・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・16
11　藤葉遺跡・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・17
12　種ヶ谷津遺跡・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・18
13　西花遺跡・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・20
14　古山遺跡・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・22

写真図版
報告書抄録

挿図目次

第1図　発掘調査遺跡位置図・・・・・・・・・4
第2図　並木遺跡地形図・・・・・・・・・・・5
第3図　並木遺跡遺構配置図・・・・・・・・・5
第4図　平山城跡地形図・・・・・・・・・・・6
第5図　平山城跡遺構配置図・・・・・・・・・7
第6図　荒立遺跡地形図・・・・・・・・・・・8
第7図　荒立遺跡遺構配置図・・・・・・・・・8
第8図　山之越第1遺跡地形図・・・・・・・・9
第9図　山之越第1遺跡遺構配置図・・・・・・9
第10図　内荒子北遺跡地形図・・・・・・・・10
第11図　内荒子北遺跡遺構配置図・・・・・・10
第12図　古山遺跡地形図・・・・・・・・・・11
第13図　古山遺跡遺構配置図・・・・・・・・11
第14図　廿五里遺跡地形図・・・・・・・・・12
第15図　廿五里遺跡遺構配置図・・・・・・・13
第16図　廿五里遺跡A地区遺構配置図・・・・13
第17図　上ノ山遺跡地形図・・・・・・・・・14
第18図　上ノ山遺跡遺構配置図・・・・・・・14
第19図　台さら坊遺跡地形図・・・・・・・・15
第20図　台さら坊遺跡遺構配置図・・・・・・15
第21図　東海道遺跡地形図・・・・・・・・・16
第22図　東海道遺跡遺構配置図・・・・・・・16
第23図　藤葉遺跡地形図・・・・・・・・・・17
第24図　藤葉遺跡遺構配置図・・・・・・・・17
第25図　種ヶ谷津遺跡地形図・・・・・・・・18
第26図　種ヶ谷津遺跡遺構配置図・・・・・・19
第27図　西花遺跡地形図・・・・・・・・・・20
第28図　西花遺跡遺構配置図・・・・・・・・21
第29図　古山遺跡地形図・・・・・・・・・・22
第30図　古山遺跡遺構配置図・・・・・・・・22
第31図　並木遺跡･荒立遺跡出土遺物・・・・23
第32図　荒立遺跡･山ノ越遺跡出土遺物・・・24
第33図　古山遺跡･廿五里遺跡･台さら坊遺跡
　　　　種ヶ谷津遺跡出土遺物・・25
第34図　西花遺跡出土遺物・・・・・・・・・26

写真図版目次

写真図版１
1　並木遺跡　調査前状況
2　並木遺跡　4D 区遺構検出状況
3　並木遺跡　6D 区遺構検出状況
4　並木遺跡　調査後状況
5　平山城跡　調査前状況
6　平山城跡　1 号古墳 3 トレンチ周溝検出状況
7　平山城跡　25 トレンチ状況
8　平山城跡　31 トレンチ状況

写真図版２
1　平山城跡　西側作業風景
2　平山城跡　30 トレンチ付近終了状況
3　荒立遺跡　調査開始直後状況
4　荒立遺跡　3B-a 区遺構検出状況
5　荒立遺跡　6C-a 付近作業風景
6　荒立遺跡　4B-a 溝状遺構遺物出土状況
7　荒立遺跡　調査終了状況
8　山之越第１遺跡　調査前状況

写真図版３
1　山之越第１遺跡　4F-d 遺構検出状況
2　山之越第１遺跡　4F-d 遺構確認状況
3　山之越第１遺跡　4E-d 焼土検出状況
4　山之越第１遺跡　調査終了状況
5　内荒子北遺跡　調査前状況
6　内荒子北遺跡　2E-d 住居跡検出状況
7　内荒子北遺跡　2E-d 付近調査風景
8　内荒子北遺跡　調査終了状況

写真図版４
1　古山遺跡　調査前状況
2　古山遺跡　4C-a 区住居跡検出状況
3　古山遺跡　2B-d 遺物出土状況
4　古山遺跡　調査終了状況
5　廿五里遺跡　調査前状況
6　廿五里遺跡　1 トレンチ作業風景
7　廿五里遺跡　2 トレンチ遺構検出状況
8　廿五里遺跡　断面住居跡確認状況

写真図版５
1　廿五里遺跡　調査終了状況
2　上ノ山遺跡　調査前状況
3　上ノ山遺跡　2D-d 区精査後状況」
4　上ノ山遺跡　調査終了状況
5　台さら坊遺跡　調査開始直後状況
6　台さら坊遺跡　4B-a 区遺構検出状況
7　台さら坊遺跡　3A-a 区遺構検出状況
8　台さら坊遺跡　調査終了状況

写真図版６
1　東海道遺跡　調査前状況
2　東海道遺跡　3B-d 区住居跡検出状況
3　東海道遺跡　1D-d 区住居跡検出状況
4　東海道遺跡　2H-a 区作業風景
5　東海道遺跡　10G-d 区住居跡検出状況
6　東海道遺跡　調査終了状況
7　藤葉遺跡　調査前状況
8　藤葉遺跡　近世溝検出状況

写真図版７
1　藤葉遺跡　調査終了状況
2　種ヶ谷津遺跡　調査前状況
3　種ヶ谷津遺跡　1 トレンチ　住居跡検出状況
4　種ヶ谷津遺跡　23 トレンチ住居跡遺物出土状況
5　種ヶ谷津遺跡　42 トレンチ住居跡ｶﾏﾄﾞ検出状況
6　種ヶ谷津遺跡　53 トレンチ住居跡検出状況
7　種ヶ谷津遺跡　64 トレンチ住居跡ｶﾏﾄﾞ検出状況
8　種ヶ谷津遺跡　142 トレンチ溝状遺構検出状況

写真図版８
1　種ヶ谷津遺跡　160 トレンチ付近作業風景
2　種ヶ谷津遺跡　108 トレンチ付近調査終了状況
3　西花遺跡　調査前状況
4　西花遺跡　調査区(20 トレンチ付近)設定状況
5　西花遺跡　5 トレンチ住居跡検出状況
6　西花遺跡　5 トレンチ付近調査風景
7　西花遺跡　16 トレンチ古墳周溝検出状況
8　西花遺跡　20 トレンチ古墳周溝検出状況

写真図版９
1　西花遺跡　21 トレンチ遺溝検出状況
2　西花遺跡　21 トレンチ住居内貝層検出状況
3　西花遺跡　21 トレンチ住居跡炉焼土検出状況
4　西花遺跡　20 トレンチ付近調査終了状況
5　古山遺跡　調査前状況
6　古山遺跡　8 トレンチ住居跡検出状況
7　古山遺跡　10 トレンチ住居跡検出状況
8　古山遺跡　21 トレンチ住居跡検出状況

写真図版 10
1　古山遺跡　調査風景
2　古山遺跡　調査終了状況
3　荒立遺跡出土遺物
　種ヶ谷津遺跡出土遺物
　古山遺跡出土遺物
　廿五里遺跡出土遺物
　西花遺跡出土遺物

はじめに

千葉市では、市域の開発事業に対して、埋蔵文化財の取扱いについて適切な措置を講じるため、昭和63年度から国庫の補助を受け、民間の開発事業に先立ち、市内に所在する遺跡の規模や性格を把握することを目的とした発掘調査を実施している。

本書は、その発掘調査の成果をまとめたものであり、今回は平成27年度の１遺跡、平成28年度の２遺跡と、平成29年度に実施した１１遺跡の計１４遺跡の発掘調査の成果について報告する。

調査対象遺跡の概要は、下記の通りである。

１．並木遺跡
　１．調査の種類　確認調査
　２．調　査　地　千葉市稲毛区作草部町984-1他
　３．調査の原因　集合住宅建設
　４．原　因　者　個人
　５．調査担当者　倉田　義広、佐藤　洋
　６．調査期間　平成28年3月15日～3月22日
　７．調査面積　2,809㎡のうち220㎡

２．平山城跡
　１．調査の種類　確認調査
　２．調　査　地　千葉市緑区平山町696他
　３．調査の原因　太陽光発電所建設
　４．原　因　者　マルシン興産株式会社
　５．調査担当者　長原　豆
　６．調査期間　平成28年10月3日～10月21日
　７．調査面積　13,000㎡のうち467㎡

３．荒立遺跡
　１．調査の種類　確認調査
　２．調　査　地　千葉市若葉区金親町384
　３．調査の原因　太陽光発電所建設及び駐車場建設
　４．原　因　者　個人
　５．調査担当者　長原　豆
　６．調査期間　平成29年2月6日～2月14日
　７．調査面積　1,461㎡のうち145㎡

４．山之越第１遺跡
　１．調査の種類　確認調査
　２．調　査　地　千葉市若葉区小倉町129-1他
　３．調査の原因　宅地造成
　４．原　因　者　拓匠開発
　５．調査担当者　松田　光太郎
　６．調査期間　平成29年4月17日～4月21日
　７．調査面積　2,887.69㎡のうち137㎡

５．内荒子北遺跡
　１．調査の種類　確認調査
　２．調　査　地　千葉市中央区生実町2164番他
　３．調査の原因　集合住宅建設

4．原　因　者　個人
5．調査担当者　長原　亘
6．調 査 期 間　平成 29 年 4 月 24 日～4 月 28 日
7．調 査 面 積　2,688.82 ㎡のうち 230 ㎡

6．古山遺跡
1．調査の種類　確認調査
2．調　査　地　千葉市若葉区桜木二丁目 72-3
3．調査の原因　宅地造成
4．原　因　者　拓匠開発
5．調査担当者　長原　亘
6．調 査 期 間　平成 29 年 5 月 17 日～5 月 19 日
7．調 査 面 積　661.05 ㎡のうち 50 ㎡

7．廿五里遺跡
1．調査の種類　確認調査
2．調　査　地　千葉市若葉区東寺山町 8-2 他
3．調査の原因　宅地造成
4．原　因　者　第一地所株式会社
5．調査担当者　西野　雅人
6．調 査 期 間　平成 29 年 9 月 4 日～9 月 6 日
7．調 査 面 積　13,964 ㎡のうち 1,042.6 ㎡

8．上ノ山遺跡
1．調査の種類　確認調査
2．調　査　地　千葉市花見川区長作町 832 番 1
3．調査の原因　宅地造成
4．原　因　者　個人
5．調査担当者　松田　光太郎、長原　亘
6．調 査 期 間　平成 29 年 7 月 10 日～7 月 14 日
7．調 査 面 積　1,268 ㎡のうち 120 ㎡

9．台さら坊遺跡
1．調査の種類　確認調査
2．調　査　地　千葉市若葉区坂月町 323 番 1 の一部
3．調査の原因　宅地造成
4．原　因　者　株式会社千葉東建設
5．調査担当者　松田　光太郎
6．調 査 期 間　平成 29 年 7 月 18 日～7 月 21 日
7．調 査 面 積　1,196.24 ㎡のうち 119 ㎡

10．東海道遺跡
1．調査の種類　確認調査
2．調　査　地　千葉市稲毛区宮野木町 833 番 1 の一部他
3．調査の原因　宅地造成
4．原　因　者　個人
5．調査担当者　長原　亘
6．調 査 期 間　平成 29 年 7 月 24 日～7 月 31 日
7．調 査 面 積　2,271.65 ㎡のうち 225 ㎡

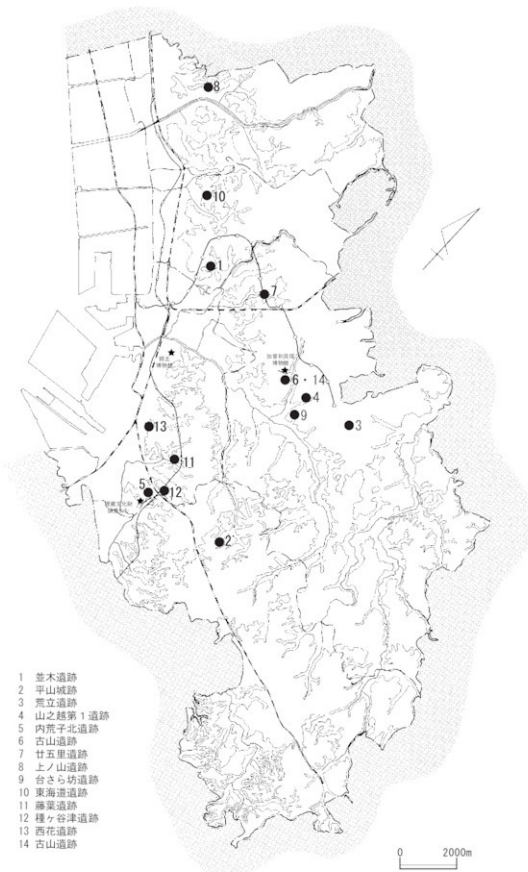
11. 藤葉遺跡
1．調査の種類　確認調査
2．調　査　地　千葉市中央区花輪町 220-7 他
3．調査の原因　個人住宅
4．原　因　者　個人
5．調査担当者　長原　亘
6．調 査 期 間　平成 29 年 8 月 29 日
7．調 査 面 積　336 ㎡のうち 35 ㎡

12. 種ヶ谷津遺跡
1．調査の種類　確認調査
2．調　査　地　千葉市中央区生実町 2661-1 他
3．調査の原因　産業廃棄物中間処理施設拡張工事
4．原　因　者　株式会社グリーンアース
5．調査担当者　長原　亘
6．調 査 期 間　平成 29 年 9 月 7 日～10 月 20 日
7．調 査 面 積　9,518 ㎡のうち 885 ㎡

13. 西花遺跡
1．調査の種類　確認調査
2．調　査　地　千葉市中央区大森町 65 番 2
3．調査の原因　宅地造成
4．原　因　者　個人
5．調査担当者　長原　亘
6．調 査 期 間　平成 29 年 10 月 30 日～11 月 17 日
7．調 査 面 積　4,299 ㎡のうち 171 ㎡

14. 古山遺跡
1．調査の種類　確認調査
2．調　査　地　千葉市若葉区加曽利町 1784 番 2 他
3．調査の原因　集合住宅建設
4．原　因　者　株式会社フナトミ
5．調査担当者　長原　亘
6．調 査 期 間　平成 29 年 11 月 20 日～12 月 1 日
7．調 査 面 積　3,380.91 ㎡のうち 288 ㎡

※4～6、8～11、13 は国庫補助事業対象の確認調査。
それ以外は、市単費事業による確認調査。
今年度は、民間の開発事業に先立つ確認調査全てを平成 27 年度まで遡って掲載した。



第１図　発掘調査遺跡位置図

1　並木遺跡（第２～３図　第３１図-1～2　写真図版１-1～4）

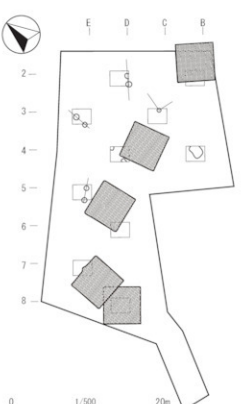
遺跡の位置と環境　遺跡は、霞川中流域右岸の標高19mを測る台地上に立地する。遺跡の西隣りに都賀小学校、北東約450mに京葉道路穴川インターチェンジがある。西側約200mには、慶応三年(1867年)からの由来で知られる作草部神社が所在する。平成28年度11月に実施された確認調査(1次調査：奈良・平安時代の住居跡5軒、掘立柱建物跡4棟、土坑1基、柱穴2基を検出、奈良時代後半の須恵器などが出土)の北隣りが今回の調査範囲である。

周辺の遺跡　同一台地上北側には、マンション建設に先立つ昭和51年の発掘調査で、弥生時代住居跡３軒、古墳時代後期の住居跡55軒、奈良・平安時代の住居跡10軒、土師器窯などを検出した駒形遺跡がある。

調査の結果　地表から確認面(ローム層上面)までの土層厚は20～50cmと薄く、畑作による深耕がローム層にまでおよぶ。遺構は、奈良・平安時代の住居跡13軒、掘立柱建物跡3棟、土坑4基を検出した。遺物は、奈良・平安時代の土師器と須恵器が出土した。第31図-1･2は、8世紀後半に比定できる在地産の土師器の坏２点である。未掲載遺物には、8世紀から9世紀頃の土師器・須恵器が主体で、古墳時代の遺物が微量、駿豆地域産の甕の破片もある。

隣接する駒形遺跡や平成28年11月に実施された確認調査結果などの成果もふまえると、遺跡の立地する台地上の広い範囲に、古墳時代後期から平安時代まで継続する集落が展開していると予想される。作草部神社と千葉郡三枝郷との関わりが注目される。

第２図　並木遺跡 地形図



第３図　並木遺跡遺構配置図

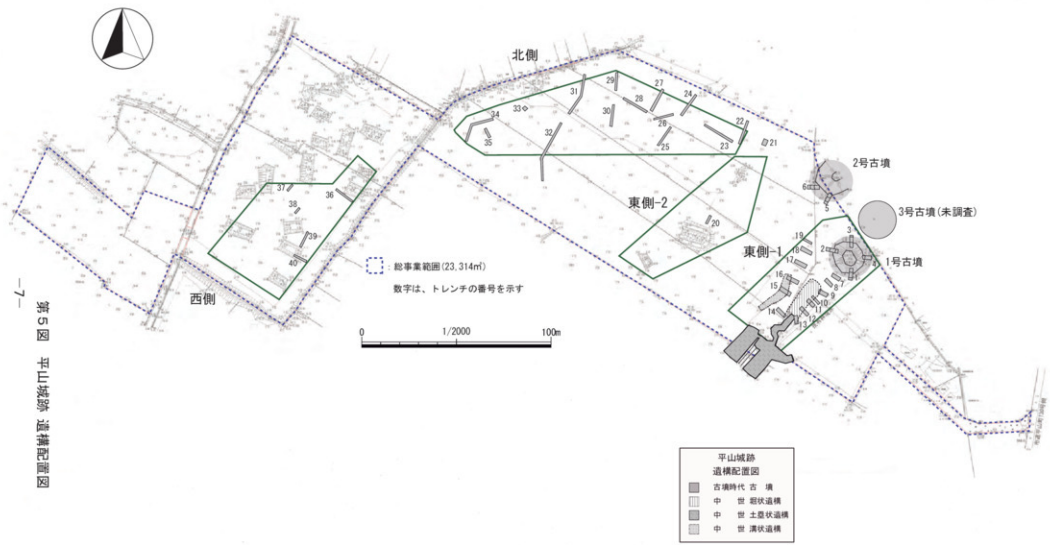
2　平山城跡（第４～５図　写真図版１-5～8　同図版２-1～2）

遺跡の位置と環境　遺跡は、市内を東西に貫流する都川の支流、支川都川上流域の右岸、標高約43mを測る台地上平坦地に立地する。遺跡の北側に千葉東金道路が隣接しており、その建設に伴う調査で、古墳時代後期の平山古墳が調査されている。この地域には土塁や溝状の遺構が山林内に広範囲にわたり視認でき、千葉氏に連なる大須賀氏に関わる城館との伝承があることが注目される。本遺跡の発掘調査は今回が初めてであり、視認できる土塁などの性格や時代の特定につながる遺物の出土などが期待された。

周辺の遺跡　この遺跡の南側には、支線都川の支流域の一つにあたる支谷があり、その支谷の両岸に遺跡が展開する。南側には前方後円墳2基を含む古墳時代後期の群集墳、平山塚原古墳群がある。平成28年度に現地踏査を行った結果、遺跡地図上に記載された古墳以外の新規の古墳状高まりを含め、8基の高塚が確認できた。その内2基は長軸30m前後を測る前方後円墳であった。南側の谷を隔てた対岸にある袖ヶ浦カンツリークラブの範囲に内は、前方後円墳3基を含む中原古墳群や縄文時代中期から後期の長谷部貝塚などがあり、ゴルフ場造成前に一部調査が行われている。中原古墳群からは、人物埴輪が出土したとの記録があり、伝中原古墳群出土の人物埴輪が埋蔵文化財調査センターに保管されている。また、主体部を軟質砂岩で構築された箱式石棺が検出され、須恵器や鉄器などが出土している。

調査の結果　遺構が検出されたのは、東側-1調査区のみで、視認できる土塁にかかわる堀状遺構、溝状遺構が確認されたが、出土遺物がなく、時期の比定にはつながらなかった。遺跡地図などでは存在が確認されていない古墳3基を新たに確認した。調査区を設定した1号と2号古墳からは、周溝が確認され、6世紀後半の土師器が出土した。これらの古墳の東北側にあり、東金自動車道建設に伴う調査を行った平山古墳とは位置関係から、同一の古墳群と推定される。

第４図　平山城跡 地形図（S=1/5000）



第５図　平山城跡　遺構配置図

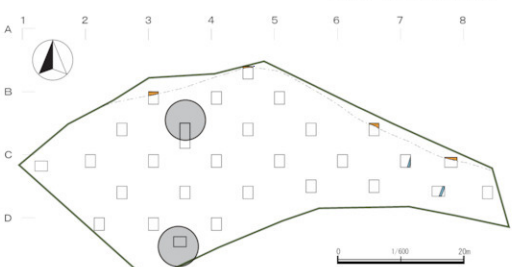
3　荒立遺跡（第６～７図、第３１図-3～35　第３２図-1～28　写真図版２-3～7）

遺跡の位置と環境　遺跡は鹿島川中流域左岸、大木戸町から南へ伸びる支谷の最奥部の位置し、標高約37mを測る台地上平坦部に立地する。千城台地域の南東部に接する位置となり、若葉消防署及び若葉土木事務所が南側約200mにある。

周辺の遺跡　遺跡の北側には近世の御成街道がある。近隣での発掘調査成果はほとんどない。

調査の結果　基本層序は、表土層10cm前後、暗褐色土層10cm前後、10～20cm前後の黒褐色土層、その下にソフトローム層となるが、黒褐色土層が確認できないトレンチもあった。遺構は、黒褐色土層上面、もしくは暗褐色下面から掘削される。多くの遺物が含まれる黒褐色の包含層が調査区区域の北端と南端にみられ、縄文時代後期の住居跡と関連しつつ、広く展開していると推測される。検出された遺構は、縄文時代後期(加曽利Ｂ式期)の住居跡2軒と、平安時代の溝状遺構1条、近世の溝状遺構2条が検出された。遺物は、縄文時代中期末から安行式期の土器が出土し、主体は加曽利Ｂ式期である。平安時代の溝状遺構内から、平安時代の糸切痕の残る土師器坏や甕の破片が出した。縄文土器が溝状遺構内からも出土したが、包含層内の土器が平安時代の遺構に流入したと推測される。なお、今回の調査は太陽光発電所の設置に伴うものだが、地下への影響がない工法での工事だったため、今後の再開発時には、再確認の必要がある。

第６図　荒立遺跡 地形図



第７図　荒立遺跡 遺構配置図

4　山之越第１遺跡（第８～９図　第３２図-29～39　写真図版２-9　同図版３-1～4）

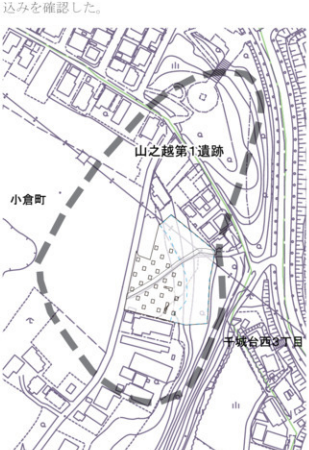
遺跡の位置と環境　遺跡は、都川の支流の一つ坂月川から分岐し、千城台から南に延びる支谷の最奥部付近に位置し、標高約32mを測る台地平坦部から緩斜面地に立地する。

周辺の遺跡　同一台地上の北約500mに中薗遺跡(昭和60年に千葉東警察署建設に伴う調査で縄文時代中期末の加曽利ＥⅣ式期の住居内貝層を伴う集落を検出)、南西約400mに小倉山王遺跡(昭和58年に真浄寺墓地造成に伴う調査で古墳時代中期・後期、平安時代の集落を検出)がある。東側の谷を挟んだ台地上には、蔵立遺跡(昭和54年に千城台第2団地建設に伴う調査で縄文時代中期阿玉台式期と平安時代の集落が検出)とさら坊遺跡(昭和40年に千城台西県営住宅などの建設に伴う調査で、人骨を含む縄文時代の貝層を確認)がある。

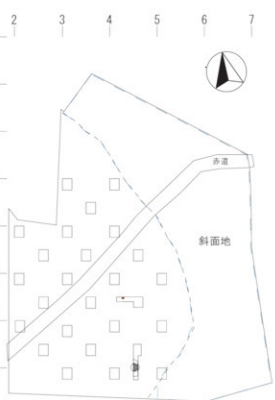
調査の結果　縄文時代後期の土坑が1基、縄文時代だが時期不明の焼土跡1箇所を検出した。

遺物は、縄文時代前期の燃糸文系土器(第32図-29～39)の割合が高く、中期阿玉台式の土器が少量含まれる。4E-dトレンチで検出した焼土跡が住居跡に伴う遺構の可能性もあるが、どちらの時期に該当するかは不明である。試掘時から、縄文時代後期の土器と平安時代の土師器片が散在しており、この調査でも3E-aトレンチとその以西の範囲に、微量の平安時代の土師器が見つかっている。平安時代の集落は西側隣接地方向へと展開するものと推測される。

基本層序は、表土層(現耕土+旧表土)、黒褐色土層(包含層、部分的に存在)、暗褐色土層の順に堆積し、地表面下30～40cmでソフトローム層上面に達する。遺構は暗褐色土層内もしくはその下面からの掘り込みを確認した。



第８図　山ノ越第1遺跡 地形図



第９図　山之越第１遺跡遺構配置図

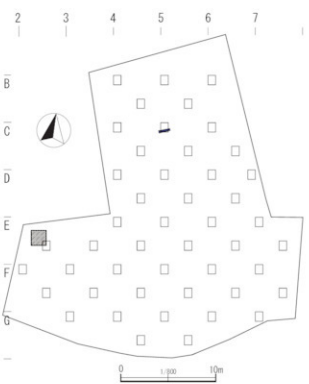
5　内荒子北遺跡（第１０～１１図　第３３図-1～4　写真図版３-5～8）

遺跡の位置と環境　遺跡は、埋蔵文化財調査センターの北東約330m、京成千原線学園前駅の西約450m、私立明徳学園の敷地の西側に隣接する。南側に大百池に開口する小支谷、北西側に東京湾岸低地に開口する小支谷に挟まれ、その分水界の頂部、標高約26mの台地上に立地する。

周辺の遺跡　遺跡の密集する台地だが、本遺跡を中心とした半径400m四方の中で、調査成果のある遺跡は少ない。東隣する赤坂第2遺跡(平成8年に明徳学園校庭造成に伴う調査、遺構・遺物なし)、南東約350mに亀甲北遺跡(駐車場造成に伴う調査で円墳の周溝を検出)、南東約150mの明徳学園正門脇の八人塚古墳群(平成29年の試掘で30m未満の墳丘長をもつ前方後円墳を再確認、北側の周溝が削平されていることを確認)などがあるが、大規模な調査に至った遺跡はない。

調査の結果　平安時代の住居跡1軒と近世の溝状遺構1条を検出した。調査域の東端が台地の頂部、頂部から西へ向かって緩く傾斜する地形で、北西に向かって浅い谷津へと下っていく。南北軸の４ラインと５ラインの中間あたりまでは、表採できる遺物は散在したが、すでに大幅な削平と整地が行われ、地表下20cm前後でハードローム層に達した。調査地内の南西隅は、浅い谷津の谷頭にあたり、地表下70cmでソフトロームに達し、その上層の暗褐色土層(包含層)内から2E-dトレンチの住居跡が掘り込まれていた。第33図-2･3の土師器坏(8世紀末漢世紀初頭)は住居跡内出土遺物である。1は縄文時代前期の土器、4は、大窯期の陶器片である。未掲載品には、8世紀末頃の湖西産須恵器長頸壺片もある。

第10図　内荒子北遺跡 地形図



第11図　内荒子北遺跡遺構配置図

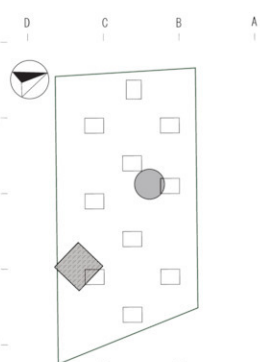
6　古山遺跡（第１２～１３図　第３３図-5～14　写真図版４-1～4）

遺跡の位置と環境　都川の支流の坂月川右岸、標高約24mの台地上に立地する。坂月川流域には遺跡が多く存在し、北側の谷向かいの台地上には特別史跡加曽利貝塚、坂月川源流域の左岸台地上には市指定史跡滑橋貝塚やその南側に柳沢遺跡（昭和56年にモノレール建設に伴う調査、旧石器、縄文時代中期初頭阿玉台式期の住居や遺物を検出、平成20年に宅地造成に伴う調査、縄文時代中期阿玉台式期の遺構や遺物、縄文時代早・前・後期の遺物も出土）といった大規模貝塚を含む縄文時代遺跡が集中する流域である。本遺跡の調査歴は、22頁の古山遺跡を参照のこと。

周辺の遺跡　同一台地上には当遺跡以外には遺跡がなく、浅い谷を隔てた南側の台地では、若郷遺跡（平成3年に病院建設に伴う調査、古墳時代中～後期の住居跡や土坑、旧石器や縄文時代中期後半から後期中頃の遺物が出土）や永作北遺跡（平成3年にゴルフ練習場建設に伴う調査、確認調査で縄文時代や古墳時代から平安時代にかけての住居跡が50軒以上検出、本調査はその内の古墳時代後期の住居跡2軒を調査）がある。

調査の結果　基本土層は、10cm前後の表土層、15～25cmの暗褐色土層、5～20cmの黒褐色土層となり、暗褐色土層下か黒褐色土層内から遺構が掘り込まれる。遺構は、古墳時代の住居跡1軒と縄文時代後期の住居跡1軒を検出した。第33図には、縄文土器を掲載した。10の前期浮島式以外は中期初頭阿玉台式が存外に多く、加曽利E式、加曽利B式が含まれる。未掲載の古墳時代遺物には、前・中期の土師器、後期（6世紀初頭）の土師器がある。なお、本調査が平成29年度中に実施され、報告書が刊行予定なので、詳細は報告書に委ねたい。

第12図　古山遺跡 地形図



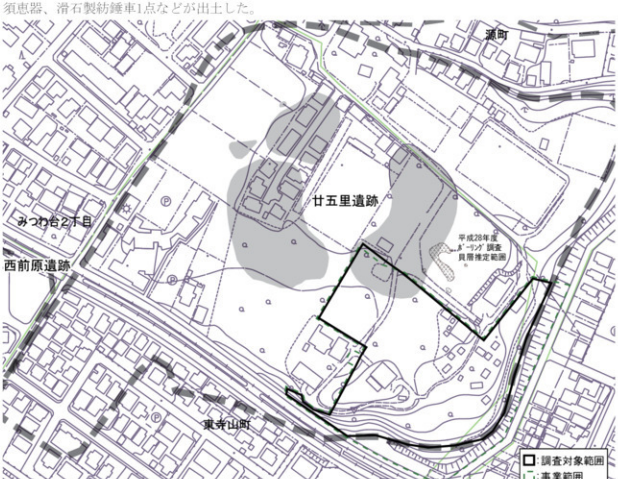
第13図　古山遺跡遺構配置図

7　廿五里遺跡（第１４～１６図　第３３図-15～22　写真図版４-5～8、同図版５-1）

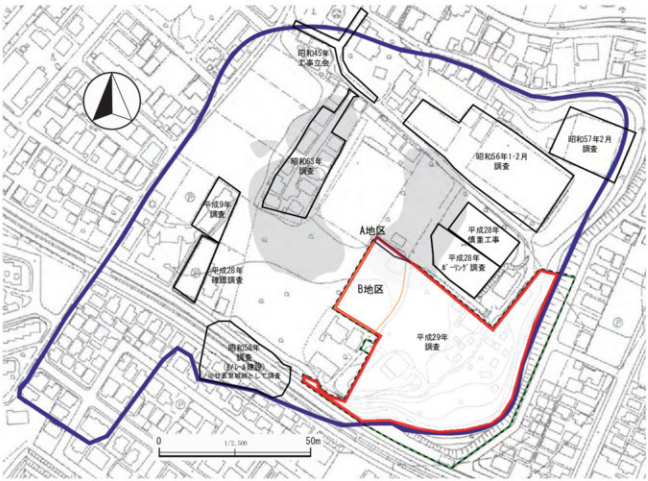
遺跡の位置と環境　調査地は、旧殿山ガーデンの敷地内にあたり、都川の支流のひとつ葭川流域の廿五里支谷奥部、標高約27mを測る台地上に立地する。モノレールのみつわ台駅から都賀方向に約450mの場所に位置する。過去の発掘地点などは、第15図を参照のこと。

周辺の遺跡　この遺跡周辺には多くの遺跡がある。北側地続きに隣接する廿五里北貝塚や南東約600mに県指定史跡の東寺山貝塚などの貝塚が集まり、遺跡の南東部約600m、谷向かいの台地上に奈良時代の地域拠点と目される原町遺跡群(根崎遺跡や台畑遺跡など)がある。

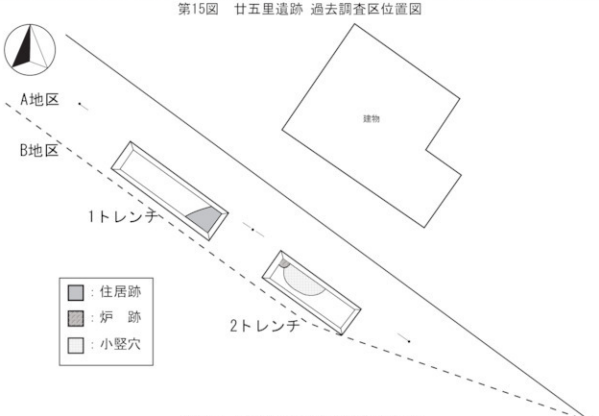
調査の結果　事業対象地は広いが、届出の受理前に大規模な造成が行われ、遺構の有無を把握できない範囲が大半を占めた。貝塚の貝層の分布範囲と推定される一部について、2か所のトレンチを設けて調査を行った。地表面下130cm前後まで削平後の盛土が確認されたが、ソフトローム層内で削平が終わっていたことから、住居跡1軒、炉跡1か所、小竪穴1基を検出した。遺物は、多くはないものの、1トレンチの遺構確認面付近で保存のよい土器片が見つかり、遺構部分では中期加曽利ＥⅡ式が3点まとまり、それ以外にも中期阿玉台式4点が出土した。2トレンチは、遺構検出地点付近で、加曽利ＥⅡ式が3点出土した。事業範囲の境界壁面を精査で、住居跡1軒を確認し、加曽利ＥⅠ～Ⅱ式が4点出土し、加曽利Ｅ式期前半の住居と推定される。その他に、早期撚糸文、後期堀之内式、石器、土師器・須恵器、滑石製紡錘車1点などが出土した。



第14図　廿五里遺跡 地形図



第15図　廿五里遺跡 過去調査区位置図



第16図　廿五里遺跡Ａ地区 遺構配置図

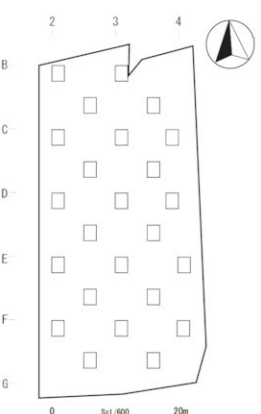
8　上ノ山遺跡（第１７～１８図　写真図版５-2～4）

遺跡の位置と環境　花見川は、河口から約５km上流で流れを東へ変える。その場所から北へ伸びる谷の通称が長作支谷である。遺跡は、その長作支谷を東に臨む標高約24mの台地上に立地する。遺跡の北約400mには御成街道、北東に長作公民館、南西約700mに長嶺寺、南約700mに花見川本流がある。平成28年度の確認調査では、埋設土器1か所と土坑1基が検出された。縄文時代後期堀之内期の壺型土器を埋設した遺構は、貼付の隆帯が特徴的で横向きに埋置するというあまり見かけない出土の仕方をした。文様や形状から縄文時代後期堀之内式の特徴と、東北地方での出土例が多い切断壺形土器の形状的な特徴の影響を強く受けた複合的な要素を持つ土器といえるが、切断はされていないのが一番の違いである。単体の出土で、周辺に同様の遺構がないことから、その性格的な判断は今後の課題といえる。

周辺の遺跡　長作公民館西側の台地上には、平成16年の調査で縄文時代早期の貝塚、炉穴群と中世城郭の一部が見つかった長作城山遺跡がある。また、遺跡の北約400mの位置にある市立長作小学校の道路向かいには、縄文時代中期中頃の集落が見つかった地蔵作遺跡、真西約400mには、昭和35年に早稲田大学が調査した縄文時代後期の長作築地貝塚がある。

調査の結果　今回調査地は、平成28年度調査区の東側に隣接する。試掘時に住居跡状の凹みを3D-bトレンチ付近で検出したことから確認調査となったが、凹みは自然の凹凸と推定され、遺構は検出されなかった。遺物は、微量の土師器以外は、縄文時代前期後半(諸磯・浮島式期)が主体で、後期堀之内期の土器が少量含まれていた。なお、掲載した遺物はない。

第17図　上ノ山遺跡 地形図



第18図　上ノ山遺跡遺構配置図

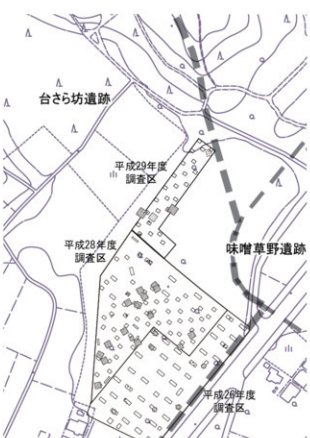
9　台さら坊遺跡（第１９～２０図　第３３図-23　写真図版５-5～8）

遺跡の位置と環境　都川の支流、坂月川の下流域左岸の標高約33mの台地平坦部に立地する。南南西約350mに坂月小学校、北東隣に坂月市民の森がある。平成26・28年に今回の対象地の南に接する地点で確認調査を実施し、縄文時代の住居跡5軒、奈良・平安時代の住居跡19軒、掘立柱建物跡4棟以上などの集落を検出している。なお、今回の調査地の南東側の隣接地は、試掘を実施したが遺構が検出されず、遺物は微量の出土だったことから、「慎重工事」の取り扱いとなり、発掘調査は実施していない。

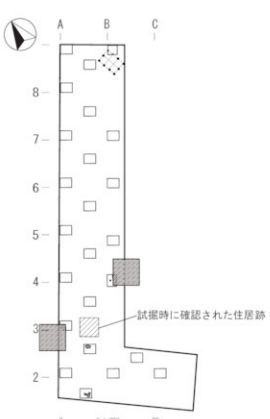
周辺の遺跡　東隣する市道建設時などに調査した味噌草野遺跡からは、奈良時代から平安時代初頭にかけての住居跡の他、複数の掘立柱建物跡が検出され、灰釉陶器などの遺物が出土している。台さら坊遺跡は、この味噌草野遺跡とよく似た構成要素が確認できた遺跡である。

調査の結果　確認調査で奈良・平安時代の住居跡2軒、掘立柱建物跡1棟、土坑1基、柱穴2基を検出し、試掘時に確認した奈良・平安時代の住居跡1軒も合わせると3軒の住居跡となる。これらの住居跡は、平成28年度の確認調査時に検出した住居跡群と一連の集落と推定される。

遺物は、8世紀代後半の土師器と須恵器を主体とし、7世紀代の土師器や縄文時代後期の土器片が出土している。第33図-23は8世紀後半の須恵器甕の口縁部で、外面のタタキが横位に施される特徴があり、胎土が千葉の在地ではないと推定される。平成28年度調査でも同形で同じタタキが施される例が出土していることから、同一の集落であることは間違いない。



第19図　台さら坊遺跡 地形図



第20図　台さら坊遺跡 遺構配置図

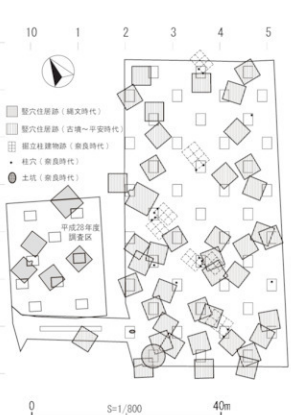
１０　東海道遺跡（第１９～２０図　写真図版６-1～6）

遺跡の位置と環境　黒砂付近で東京湾岸低地に開口する花園川(檜橋支谷)水系に属し、台地の南側に園生支谷、西側と北側を宮野木支谷に挟まれる標高約25mを測る台地上平坦部に立地する。遺跡の南南西約1.7㎞にJR 稲毛駅、北北東約1㎞に東関東自動車道宮野木JCTがある。平成24 年の確認調査(縄文時代土坑2基、古墳～平安時代住居跡23軒、中近世溝状遺構3条を検出、住居跡に伴う貝層(ｱｻﾘ・ﾊﾏｸﾞﾘ主体)も検出、縄文時代中期加曽利ＥⅡ・Ⅲ式の土器、古墳時代須恵器・土師器などが出土)、平成26年の本調査(平成24年調査の中で工事による掘削が深くまで及ぶ範囲について実施、古墳時代後期住居跡4軒、柵列状遺構1条を検出)、平成28年の確認調査(西側隣接地の調査、古墳～平安時代の住居跡5軒が検出)などの調査歴がある。

周辺の遺跡　小中台町や宮野木町界隈には遺跡が密集している。北に隣接する宮野木原第2遺跡は、平成27年に本調査を行い、縄文時代土坑1基、古墳時代後期住居跡10軒、平安時代住居跡2軒が検出されている。本遺跡と同一台地である上、遺構の時期や検出傾向から、同一の大きな集落であった可能性が高いと考えられる。

調査の結果　縄文時代中期末の貝層を伴う住居跡1軒、古墳～平安時代の住居跡42軒、奈良時代の掘立柱建物跡7棟、柱穴4基、土坑1基が検出された。遺物は、縄文中期の土器と貝層や、古墳～平安時代の土師器・須恵器などが出土した。平成29年度に平成28年調査区も含めた範囲を含め、造成事業における深い掘削が予定される範囲に限っての本調査を実施した。今回の成果も含めた詳細は、平成30年度刊行予定の報告書に委ねたい。

第21図　東海道遺跡 地形図



第22図　東海道遺跡 遺構配置図

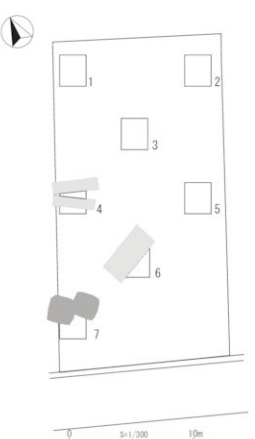
１１　藤葉遺跡（第２３～２４図　写真図版６-7～8、同図版７-1）

遺跡の位置と環境　生実池に流入する花輪支谷を南に、仁戸名へ分岐する支谷開口部を東に望む標高約25mの台地平坦部に立地する。生実池は南西約1.5km、同方向約600mに大巌寺小学校、北北西約700mに京成千原線大森台駅がある。遺跡は、北に隣接する運動場建設（計画当初は学校予定地）に伴う昭和51～52年の調査で、古墳時代後期から奈良時代の住居跡7軒や土坑を検出しており、今回の調査地はその部分から南へ約100m離れた地点となる。

周辺の遺跡　京葉道路と千葉急行線（現京成千原線）などに伴う調査成果が周辺には少なくない。遺跡の北側、小開析谷を挟んだ台地上に古墳～平安時代の集落である谷津遺跡があり、律令期の銅印の鋳造施設を含む地域の生産工房群が見つかった。千葉急行線（現京成千原線）建設に伴う調査では、谷津遺跡、池田古墳群、瓜作遺跡、荒立遺跡などがある。東約800mに仁戸名遺跡（昭和47年調査、古墳群と集落を検出、現千葉南高校）、西約600mに西花遺跡（調査当時は大森第2遺跡、昭和46年に京葉道路建設時に調査を行ない、古墳時代中期の百済系軟質土器などが出土）があるなど、調査成果が多く集積している地域である。

調査の結果　試掘時に確認し住居跡と推測した遺構は、近世の溝状遺構であることが判明した。検出した3条の溝状遺構と2基の土坑はいずれも江戸時代以降の所産と推定される。遺物は、各トレンチから古墳時代中期の土師器と後期の土師器・須恵器が出土した。周辺にこれらの時期の遺構が存在する可能性もあろう。

第23図　藤葉遺跡 地形図



第24図　藤葉遺跡 遺構配置図

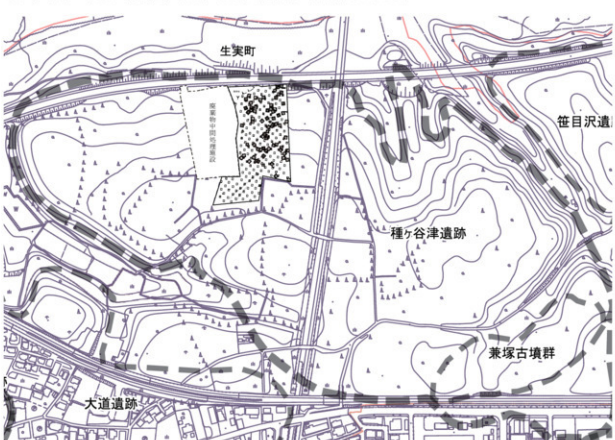
１２　種ヶ谷津遺跡（第２５～２６図　第３３図-24～33　写真図版７-2～8、同図版８-1～2）

遺跡の位置と環境　北側に生実池に流入する赤井支谷、南側に大百池に流入する赤塚支谷に挟まれた標高約29～36mを測る台地上頂部から北への緩傾斜地に立地する。京成千原線学園前駅の北約750m、生実神社の東約900mに遺跡は立地する。平成6年(北に隣接する県道建設に伴う調査、奈良三彩をはじめとする多量の遺物が出土)、昭和54～57年(東隣接地を千葉急行線(現京成千原線)建設に伴う調査、住居跡群を検出)などの調査成果により、台地上に広く集落が展開すると推測できるようになった。位置関係から緑区おゆみ野地域の調査成果との関連が深いと考えられる。

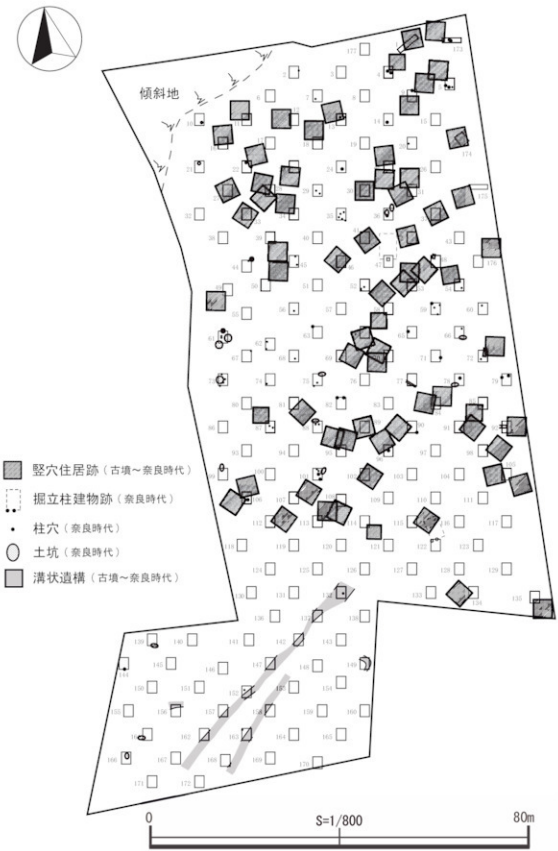
周辺の遺跡　同一台地上の東隣に笹目沢遺跡、西隣に大道遺跡があり、いずれも北側の県道建設に伴う調査が行われている。北側の赤井支谷を挟んだ台地上には榎作遺跡があり、この遺跡も千葉急行線建設に伴う調査で密集度の高い集落が検出された。

調査の結果　未伐採の広範囲な山林内に調査区を177か所設定し、古墳～平安時代にかけての住居跡70軒、奈良時代掘立柱建物跡2棟、柱穴79基、土坑16基、溝状遺構6条を検出した。北への緩傾斜には微妙な平坦地があり、その平坦部分に遺構が集中する傾向があり、古代の地形変化が現代まで残存していると推測できる。遺構の検出状況から、東側の未調査区域へも集落は続くと推測される。また、南西部には住居跡群が形成されない代わりに、集落へ続く溝状遺構で区画された推定古代道が検出され、古代の生活導線を考えるうえで、貴重な成果となった。

なお、平成30年度に本調査、平成31年度に報告書の刊行予定である。



第25図　種ヶ谷津遺跡 地形図(1/5000)



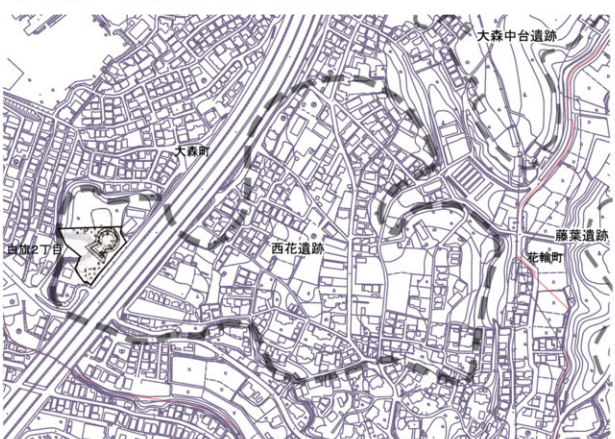
第26図　種ヶ谷津遺跡 遺構配置図

１３　西花遺跡（第２７～２８図　第３４図-1～36　写真図版８-3～8、同図版９-1～4）

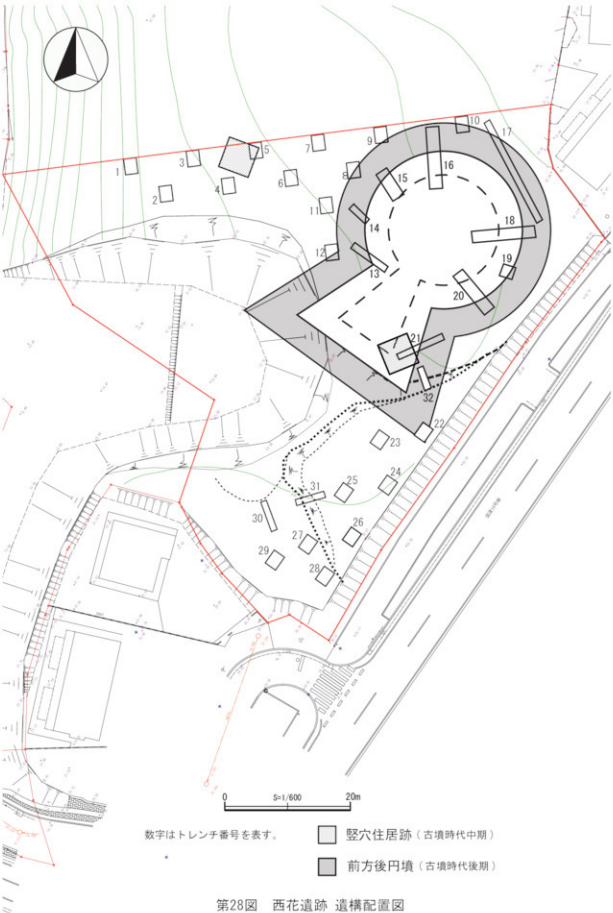
遺跡の位置と環境　生実池に流入する小支谷の一つで、現在の市立大森小学校付近を水源とする大巌寺支谷を南に臨む標高約20mの舌状台地上の平坦部に立地する。北に約250mで市立大森小学校、ほぼ真南に約350mで大巌寺と淑徳大学、東隣は京葉道路がある。昭和46年に京葉道路建設に伴い大森第２遺跡として本調査が行われている。本調査では、弥生時代と古墳時代中期の遺構・遺物が出土し、中でも韓式系の軟質土器は全国的にも希少な出土例として知られている。

周辺の遺跡　京葉道路と千葉急行線（現京成千原線）などに伴う調査成果が周辺には少なくない。遺跡の東側に臨む大森支谷を挟んだ台地上には、古墳から平安時代にかけての集落である谷津遺跡があり、律令期の銅印の鋳造施設を含む地域の生産工房群が見つかった。北に約700m付近にある大森第１遺跡は、古墳時代前期の集落、染谷津遺跡では平安時代の貝塚が見つかっている。

調査の結果　古墳時代中期の住居跡2軒と後期の前方後円墳（全長約33m、後円部径約25m、方形部最大幅約20m）が検出された。中期の住居跡は、京葉道路建設時に調査された集落に含まれるものと推測され、1軒は墳丘下での検出（貝層を伴う）である。市街地で前方後円墳を確認できた稀有な例である。しかし、前方部の長辺の端部は削平されており、完全な前方後円形ではない。古墳周辺の各トレンチからは円筒埴輪片が多数出土し、下総型円筒埴輪と考えられる（第34図-1～29）。埴輪列や形象埴輪と推定できるものない。30の須恵器は、櫛描波状文のつく壺型製品、31の鉄鏃は貝層中からの出土、その他の土師器（32～36）も含め集落に伴うものと推定される。



第27図　西花遺跡 地形図（1/5000）



第28図　西花遺跡 遺構配置図

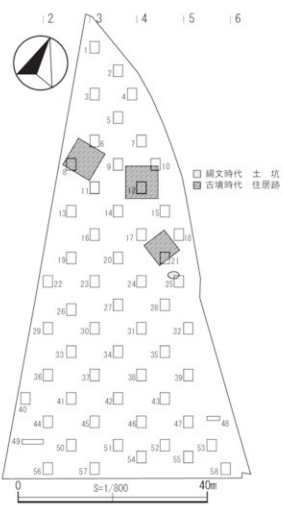
１４　古山遺跡（第２９～３０図　第３３図-34　写真図版９-5～8、同図版１０-1～2）

遺跡の位置と環境　11頁に位置と環境について記載済みなので、本項では、調査歴を記しておく。昭和63年(古墳時代前期～中期の集落を検出、三角板皮綴冑の一部が住居跡から出土)、平成22年(古墳時代中期の住居跡1軒)、平成29年(古墳時代中期の住居跡3軒など)に本調査が行われている。これら以外の地点の試掘もあるが、遺構の検出がない地点も少なくない　。

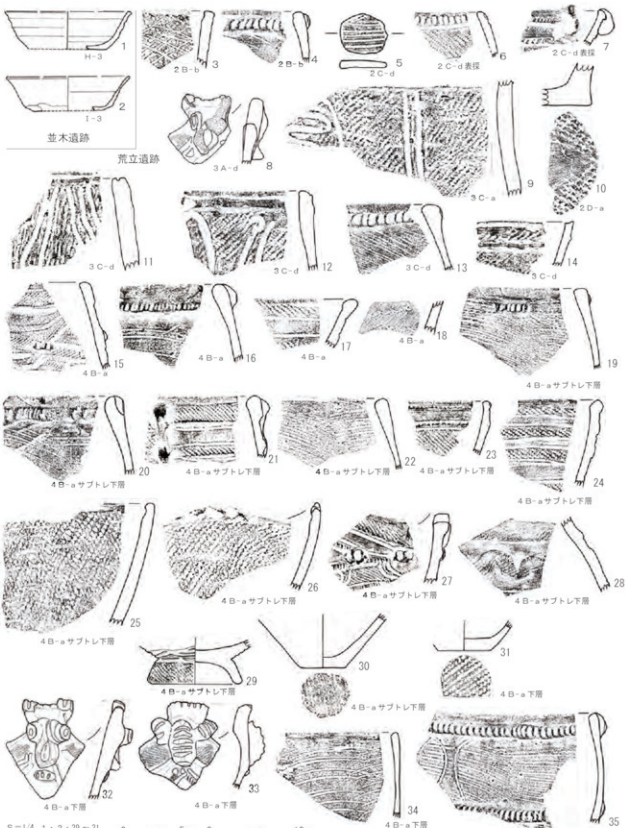
周辺の遺跡　11頁に記載済み。

調査の結果　基本土層は、10cm前後の表土層、15～20cmの暗褐色土層、5～10cmの黒褐色土層となり、暗褐色土層下か黒褐色土層内から遺構が掘り込まれる。遺構確認面までの深さは若干浅い。黒褐色土層は調査域の西側に偏って残存し、東に向かうにつれてなくなる傾向があった。遺構は、縄文時代の土坑1基と古墳時代の住居跡3軒を検出した。遺物は、中期初頭阿玉台式や後期堀之内式などが若干出土している。古墳時代中期の土師器が主体的に出土しており、検出された住居跡の時期に重なる可能性が高い。第33図-34の土師器は、古墳時代中期の碗形の坏である。調査区南端付近の48トレンチで出土した。ソフトローム層まで掘削がおよばない若干の硬化面を持つ溝状の凹みがいくつかのトレンチで確認され、その一つの覆土から出土した。未掲載物には、駿豆型甕の破片も含まれていた。なお、平成30年度中の本調査を調整中である。

第29図　古山遺跡 地形図

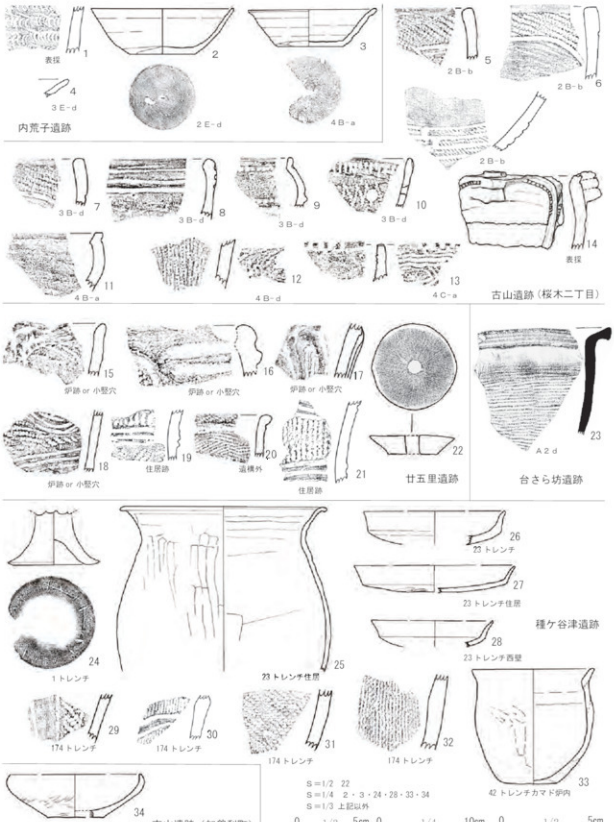


第30図　古山遺跡 遺構配置図

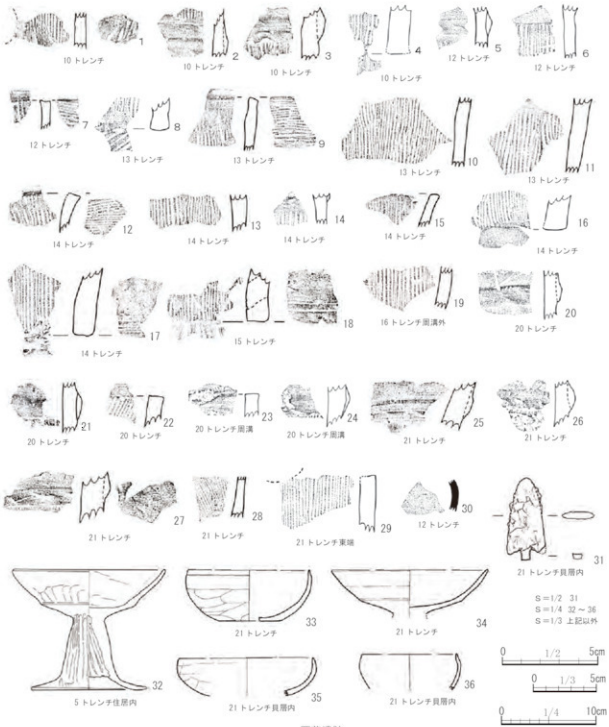


第31図　並木遺跡・荒立遺跡出土遺物

第32図　荒立遺跡・山ノ越遺跡出土遺物



第33図　古山遺跡・廿五里遺跡・台さら坊遺跡・種ケ谷津遺跡出土遺物



西花遺跡

第34図　西花遺跡出土遺物

1　並木遺跡　調査前状況（南東から）

2　並木遺跡　40区遺構検出状況（北西から）

3　並木遺跡　60区遺構検出状況（北西から）

4　並木遺跡　調査後状況（南東から）

5　平山城跡　調査前状況（南から１号古墳を望む）

6　平山城跡　１号古墳３トレンチ周溝検出状況（南西から）

7　平山城跡　25トレンチ状況（南から）

8　平山城跡　31トレンチ状況（南から）

写真図版２

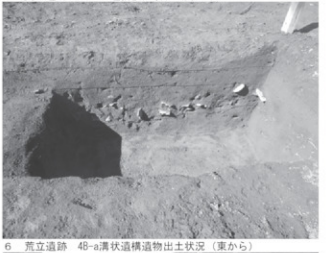
1　平山城跡　西側作業風景（南東から）

2　平山城跡　30トレンチ付近終了状況（南から）

3　荒立遺跡　調査開始直後状況（東から）

4　荒立遺跡　38-a区遺構検出状況（南から）

5　荒立遺跡　6C-a付近作業風景（西から）



6　荒立遺跡　48-a溝状遺構遺物出土状況（東から）

7　荒立遺跡　調査終了状況（西から）

8　山之越第1遺跡　調査前状況（南から）

1　山之越第Ⅰ遺跡　4F-d遺構検出状況（北西から）

2　山之越第Ⅰ遺跡　4F-d遺構確認状況（南から）

3　山之越第Ⅰ遺跡　4E-d焼土検出状況（東から）

4　山之越第Ⅰ遺跡　調査終了状況（北西から）

5　内荒子北遺跡　調査前状況（東から）

6　内荒子北遺跡　2E-d住居跡検出状況（北から）

7　内荒子北遺跡　2E-d付近調査風景（西から）

8　内荒子北遺跡　調査終了状況（東から）

写真図版４

1　古山遺跡　調査前状況（西から）

2　古山遺跡　40-a区住居跡検出状況（南から）

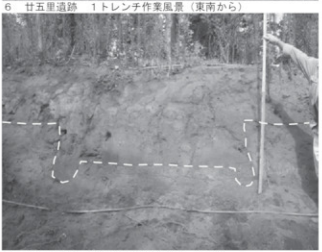
3　古山遺跡　28-d遺物出土状況（東から）

4　古山遺跡　調査終了状況（東から）

5　廿五里遺跡　調査前状況（東南から）

6　廿五里遺跡　1トレンチ作業風景（東南から）

7　廿五里遺跡　2トレンチ遺構検出状況（東南から）



8　廿五里遺跡　断面住居跡確認状況　南から

1　廿五里遺跡　調査終了状況（東南から）

2　上ノ山遺跡　調査前状況（北から）

3　上ノ山遺跡　2D-d区精査後状況（南から）

4　上ノ山遺跡　調査終了状況（北から）

5　台さら坊遺跡　調査開始直後状況（南西から）

6　台さら坊遺跡　4B-a区遺構検出状況（西から）

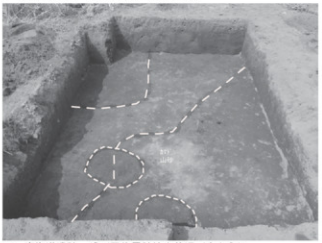
7　台さら坊遺跡　3A-a区遺構検出状況（東から）

8　台さら坊遺跡　調査終了状況（南西から）

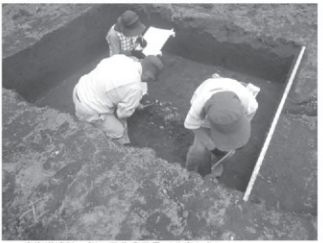
写真図版６

1　東海道遺跡　調査前状況（南西から）

2　東海道遺跡　38-d区住居跡検出状況（南から）



3　東海道遺跡　10-d区住居跡検出状況（南から）



4　東海道遺跡　2H-a区作業風景（北東から）

5　東海道遺跡　10G-d区住居跡検出状況（東から）

6　東海道遺跡　調査終了状況（南西から）

7　藤棄遺跡　調査前状況（南から）

8　藤棄遺跡　近世溝検出状況（南から）

1　藤菜遺跡　調査終了状況（南から）

2　種ヶ谷津遺跡　調査前状況（南西から）

3　種ヶ谷津遺跡　1トレンチ住居跡検出状況（南西から）

4　種ヶ谷津遺跡　23トレンチ住居跡遺物出土状況（北から）

5　種ヶ谷津遺跡　42トレンチ住居跡カマド検出状況（西から）

6　種ヶ谷津遺跡　53トレンチ住居跡検出状況（南から）

7　種ヶ谷津遺跡　64トレンチ住居跡カマド検出状況（南から）

8　種ヶ谷津遺跡　142トレンチ溝状遺構検出状況（南から）

写真図版８

1　種ヶ谷津遺跡　160トレンチ付近作業風景（南西から）

2　種ヶ谷津遺跡　108トレンチ付近調査終了状況（北西から）

3　西花遺跡　調査前状況（南から）

4　西花遺跡　調査区(20トレンチ付近)設定状況（南から）

5　西花遺跡　５トレンチ住居跡検出状況（南から）

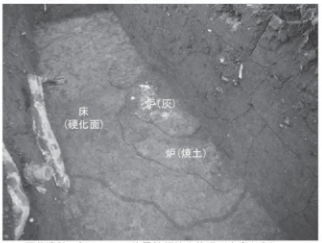
6　西花遺跡　５トレンチ付近調査風景（西から）

7　西花遺跡　16トレンチ古墳周溝検出状況（北から）

8　西花遺跡　20トレンチ古墳周溝検出状況（東から）

1　西花遺跡　21トレンチ遺構検出状況（東から）

2　西花遺跡　21トレンチ住居内貝層検出状況（南東から）



3　西花遺跡　21トレンチ住居跡炉検出状況（南東から）

4　西花遺跡　20トレンチ付近調査終了状況（南から）

5　古山遺跡　調査前状況（南から）

6　古山遺跡　8トレンチ住居跡検出状況（南から）

7　古山遺跡　10トレンチ住居跡検出状況（南から）

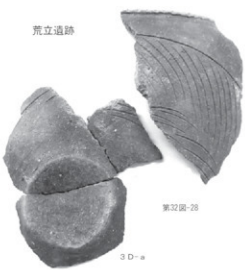
8　古山遺跡　21トレンチ住居跡検出状況（南から）

写真図版10

1　古山遺跡　調査風景（北から）

2　古山遺跡　調査終了状況（北から）

荒立遺跡



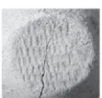
第32図-28

3 D-a

網代底

第31図-10

2 D-a



4 B-a サブトレ下層　第31図-30

4 B-a 下層　第31図-31

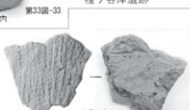
42 トレンチカマド炉内　第33図-33

1 トレンチ　第33図-24

種ケ谷津遺跡

古山遺跡（桜木二丁目）

3 B-d　第33図-10



4 B-d　第33図-12

表採　第33図-14

炉跡 or 小竪穴　第33図-18

遺構外　第33図-20

廿五里遺跡

炉跡 or 小竪穴　第33図-17

住居跡　第33図-21

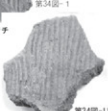
第33図-22

西花遺跡

第34図-1

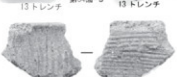
10 トレンチ

13 トレンチ　第34図-9

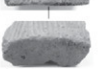


13 トレンチ　第34図-11

21 トレンチ貝層内



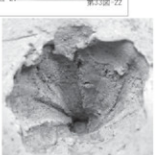
14 トレンチ　第34図-12



14 トレンチ　第34図-16

第34図-32

5 トレンチ住居内



掘柱内部調整状況

20 トレンチ周溝　第34図-23

第34図-26

21 トレンチ

報告書抄録

ふりがな	まいぞうぶんかざいちょうさ（しないいせき）ほうこくしょ
書　名	埋蔵文化財調査（市内遺跡）報告書
副書名	―平成２９年度―
巻次	
シリーズ名	市内遺跡報告書
シリーズ番号	第30冊目
編著者名	長原　豆
編集機関	千葉市埋蔵文化財調査センター
所在地	〒260-0814　千葉市中央区南生実町1210　　TEL 043-266-5433
発行年月日	西暦2018年3月31日

ふりがな	ふりがな	コード		経緯度		調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	北緯	東経			
笠木遺跡	稲毛区 作草部町984-1他	12103	稲毛区 -68	35° 37′ 11″	140° 7′ 17″	20160315～ 20160322 （確認調査）	220/ 2809㎡	集合住宅建設
平山城跡	緑区 平山町696他	12105	緑区 -91	35° 34′ 26″	140° 11′ 47″	20161003～ 20171021 （確認調査）	467/ 13,000㎡	太陽光発電所建設
荒立遺跡	若葉区 金親町384	12104	若葉区 -287	35° 37′ 07″	140° 12′ 02″	20170206～ 20170214 （確認調査）	145/ 1,461㎡	太陽光発電所建設及び駐車場建設
山之越第1遺跡	若葉区 小倉町129-1他	12104	若葉区 -117	35° 37′ 17″	140° 10′ 49″	20170417～ 20170421 （確認調査）	137/ 2,887.69㎡	宅地造成
内荒子北遺跡	中央区 生実町2164番他	12101	中央区 -117	35° 33′ 43″	140° 9′ 14″	20170424～ 20170428 （確認調査）	230/ 2,688.82㎡	集合住宅建設
吉山遺跡	若葉区 桜木2丁目72-3	12104	若葉区 -135	35° 37′ 17″	140° 10′ 4″	20170517～ 20170519 （確認調査）	50/ 661.05㎡ ,	宅地造成
廿五里遺跡	若葉区 東寺山町8-2他	12104	若葉区 -28	35° 38′ 12″	140° 8′ 24″	20170711 （確認調査）	1,042.6/ 13,964㎡	宅地造成
上ノ山遺跡	花見川区 長作町832-1	12102	花見川区 -32	35° 40′ 44″	140° 4′ 31″	20170710～ 20170714 （確認調査）	120/ 1,268㎡	宅地造成

ふりがな	ふりがな	コード		経緯度		調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	北緯	東経			
台さら坊遺跡	若葉区 坂月町323-1の一部	12104	若葉区 -159	35° 36′ 57″	140° 10′ 54″	20170718～ 20170721 （確認調査）	119/ 1,196.24㎡	宅地造成
東海道遺跡	稲毛区 宮野木町833-1 の一部他	12103	稲毛区 -8	35° 39′ 11″	140° 5′ 45″	20170724～ 20170731 （確認調査）	225/ 2,271.65㎡	宅地造成
静葉遺跡	中央区 花輪町220-7他	12101	中央区 -72	35° 34′ 39″	140° 9′ 11″	20170829 （確認調査）	35/ 336㎡	個人住宅
権ヶ谷津遺跡	中央区 生実町2661-1他	12101	中央区 -130	35° 34′ 24″	140° 9′ 36″	20170907～ 20171020 （確認調査）	885/ 9,518㎡	廃棄物中間処理施設拡張工事
西花遺跡	中央区 大森町65番2	12101	中央区 -74	35° 34′ 40″	140° 8′ 44″	20171030～ 20171117 （確認調査）	171/ 4,299㎡	宅地造成
吉山遺跡	若葉区 加曽利町1784番2他	12104	若葉区 -135	35° 37′ 11″	140° 10′ 6″	20171120～ 20171201 （確認調査）	288/ 3,380.91㎡	集合住宅建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
並木遺跡	包蔵地	奈良・平安時代	竪穴住居跡　13軒 掘立柱建物跡　3棟 土　坑　4基	須恵器・土師器	
平山城跡	城館跡	縄文時代 古墳時代後期 中　世	古　墳　2基 堀状遺構　1箇所 土塁状遺構　1箇所 溝状遺構　1条	縄文土器 土師器	遺跡地図に掲載されていない古墳3基を新たに確認（対象地内に2基、隣接地に1基）
荒立遺跡	集落跡 貝塚	縄文時代 平安時代 中近世	竪穴住居跡　2軒 溝状遺構　1条 溝状遺構　2条	縄文土器 土師器	
山ノ越第1遺跡	包蔵地	縄文時代 奈良・平安時代	土　坑　1基 焼土跡　1箇所	縄文土器 土師器	

内荒子北遺跡	包蔵地	縄文時代 平安時代 近　世	竪穴住居跡　1軒 溝状遺構　1条	縄文土器 土師器、須恵器	
古山遺跡	集落跡	縄文時代 弥生時代 古墳時代	竪穴住居跡　1軒 竪穴住居跡　1軒	縄文土器 土師器	
廿五里遺跡	集落跡 貝塚 城館跡 塚	縄文時代 奈良・平安時代 中　世	竪穴住居跡　1軒 小竪穴　1基 炉　跡　1基	縄文土器 土師器・石製品	滑石製紡錘車1個出土 古墳時代後期以降か
上ノ山遺跡	包蔵地	縄文時代		縄文土器	
台さら坊遺跡	貝塚 古墳	縄文時代 古墳時代 奈良・平安時代	竪穴住居跡　2軒 掘立柱建物跡　1棟 土　坑　1基 柱　穴　2基	縄文土器 土師器・須恵器	試掘時に住居跡1軒確認済みなので、今回の対象範囲内の合計は3件となる
東海道遺跡	貝塚	縄文時代 古墳時代 奈良・平安時代	竪穴住居跡　1軒 竪穴住居跡　42軒 掘立柱建物跡	縄文土器、貝類 土師器 土師器、須恵器	縄文時代の住居跡内に、貝層を確認
藤棄遺跡	包蔵地 貝塚 城館跡	平安時代 中近世	溝状遺構　3条 土　坑　2基	土師器・須恵器	
種ヶ谷津遺跡	包蔵地 集落跡	旧石器時代 縄文時代 古墳時代 奈良・平安時代	竪穴住居跡　70軒 (住居跡は古墳～平安) 掘立柱建物跡　2棟 土　坑　16基 溝状遺構　6条	 縄文土器 土師器、須恵器 土師器・須恵器	
西花遺跡	集落跡	縄文時代 弥生時代 古墳時代 奈良・平安時代	 竪穴住居跡(中期)　2軒 前方後円墳(後期)　1基	縄文土器 土師器、須恵器 埴輪 土師器	新規の前方後円墳を確認
古山遺跡	集落跡	縄文時代 弥生時代 古墳時代	土　坑　1基 竪穴住居跡　3軒	縄文土器 土師器	

要　約	並木遺跡：平成27年度の1次調査と昭和51年度の駒形遺跡の調査成果をあわせると、遺跡の立地する台地上には広く密度の濃い遺構が存在することが理解できる。作草部神社の存在や千葉郡三枝郷の所在地の一つと目されていることから、検出された遺構の存在意義は大きい。 平山城跡：中世大須賀氏との関わりを伝えられる遺跡だが、平安時代以降の遺物の出土がなく、城館としての具体的な情報に乏しいことは否めない。今回の調査でも堀状遺構や土塁状の遺構などが確認されたが、それらが中世城館に付随する施設であったかの確証は得られなかった。古墳時代後期の群集墳を新たに確認した。1号・2号古墳には周溝があり、周溝内からは6世紀代の土師器や須恵器が出土した。昭和52年に調査された平山古墳との位置関係から、一連の群集墳として認識できると考えられる。 荒立遺跡：踏査時に多くの縄文土器を表採したことから、遺構が検出される可能性を想定していたが、遺物を多く含む包含層があったことがその要因であった。検出された2軒の住居は、いずれも遺物が多量に出土しており、住居の廃絶後に土器捨て場として利用された可能性が高い。平安時代の溝状遺構は、今回の事業範囲の形状に沿って形成されており、古代の土地利用を知る手掛かりに一つになろう。 山ノ越第1遺跡：試掘時に確認した遺構は、住居跡ではなく大型の土坑と判明した。また、焼土は住居跡の存在を示唆するが、柱穴などは確認されていない。出土遺物は、縄文早期の燃糸文土器があり注目される。 内荒子北遺跡：平安時代の住居跡が1軒出土した。対象域の東側半分はほぼ削平されており、集落があった痕跡は全く確認できなかった。 古山遺跡：東側隣接地を昭和63年度に調査が行われ、古墳時代中期を主体とする集落が検出されている。今回の調査区でも同時期の住居が確認されており、集落がさらに西へ広がることが確認された。 廿五里遺跡：廿五里南貝塚と認識されてきた場所の一部を開発に先立ち確認した。上層は撹拌と盛土がなされ旧地形は確認することができなかったが、盛土下から住居跡などが検出され、遺構の残存が確認できた。 上ノ山遺跡：試掘時に確認した住居跡は、旧地形の凹みであることがわかり、遺構は検出されなかった。 台さら坊遺跡：検出した住居跡は、平成28年度の西側隣接地の調査で確認された集落の続きとみられる。南東側隣接地の試掘では、遺構が検出されなかったことから、北東側の集落限界が確認できた。 東海道遺跡：対象域全域に古墳時代から平安時代にかけての集落が密度濃く検出された。また、対象地内の南西端種変を中心に縄文土器が散在しており、貝層を伴う住居跡が検出された。 藤棄遺跡：試掘で住居跡と判断したものは、近世の箱状に掘削された溝状遺構であった。 種ヶ谷津遺跡：対象域の7割程度から密度濃く住居跡が検出された。その集落に取りつくように検出された並行して集落までのびる溝状遺構があり、古代道の側溝の可能性が考えられる。古代における生活空間の一端をうかがえるデータとなった。 西花遺跡：昭和46年に東側に隣接する京葉道路建設に先立つ調査が行われ、今回の対象地の南側はその際に調査された範囲の一部と推定される。その部分よりも北側の対象地から、古墳時代後期の埴輪を伴う前方後円墳1基が新たに確認された。市街地で前方後円墳の墳形を確認できた初例である。その周辺や墳丘下から古墳時代中期の住居跡が検出され、高速道路建設時の集落が西へさらに伸びていたことも確認できた。 古山遺跡：北東側近接地を昭和63に調査し、平成29年に前述の地区の確認調査及び本調査を実施しており、そこで検出された集落に含まれる住居跡群を検出した。ただ、それぞれの住居跡群ごとの間には、住居跡が全く見つからない場所もあり、台地上の空間利用を推定できる情報となった。

埋蔵文化財調査（市内遺跡）報告書

－平成 29 年度－

発　行　日　平成 30 年 3 月 31 日

発　　行　千葉市埋蔵文化財調査センター
〒260-0814
千葉市中央区南生実町 1210
TEL　043-266-5433

印　　刷　株式会社ハシダテ
〒261-0002
千葉県千葉市美浜区新港１１６－１
TEL　043-243-3311